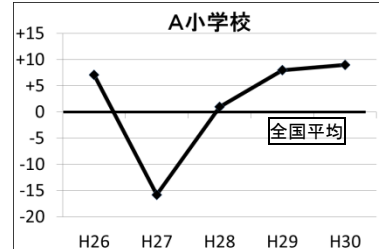


成果があった具体的な取組事例 ＜小学校編＞

A小学校は、「学力向上推進委員会」を中心に、学校の組織を活性化するために校内研修の充実を図り、学校全体で授業改善、学力向上に取り組んでいる。

全国学力・学習状況調査において、各教科の合計が平成29年度は全国8ポイント上回っており、平成30年度は9ポイント上回った。特に、算数のA問題については、平成29年度は2ポイント、平成30年度は、7ポイント上回るなど、連続して上昇傾向にある。



A小学校で「成果があった取組」

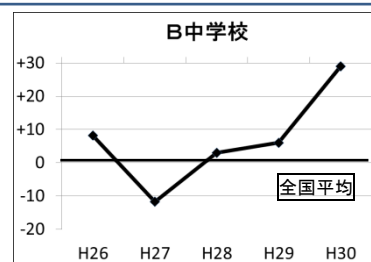
- ・ 教員が組織として学力向上に取り組もうとする研修体制の整備を図り、ワークショップ型研修などに取り組むことで、教員の参画意識が高まり、共通理解したことが実践できている。
- ・ 全国学力・学習状況調査、鹿児島学習定着度調査について、児童がどんな間違いをしているか、問題ごとに「誤答分析」を行った。明らかになった課題については、年間指導計画に追加して授業で重点的に取り扱うなど、授業改善に生かしている。また、正答率が低い問題については、放課後に補充指導や個別指導等を行い、定着を図っている。
- ・ 研究授業・授業研究の際は、大学教授などの学力向上支援チームからの専門的な指導・助言により、教員は意識が高まり、「主体的・対話的で深い学び」の実現について、日々の授業改善に生かしている。
- ・ 毎時間、授業の終末には「振り返りの時間」を設定し、学習内容や「分かったこと、できたこと」などを、児童自身の言葉で振り返らせている。

その他の学校で「成果があった取組」

- ・ 全教員が年1回の研究授業を実施し、相互に参観し合っ、授業研究を行い、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を図っている。
- ・ 活用する問題を意識して、全ての授業で「書く活動」を意図的・計画的に設定し、文章や図表などを活用させたり、字数制限を課して書かせたりしている。
- ・ 重要語句等について、小テストやフラッシュ型教材を繰り返し活用して、基礎・基本の定着を徹底している。
- ・ 「単元テストは100点を取るまで何回もやり直させる」など、確実な見届けを行っている。
- ・ B問題を意識して、過去問や「かごしま学力向上支援Webシステム」の単元別評価問題に、授業や家庭学習等で取り組ませるとともに、ファイリングさせて振り返らせるようにしている。

成果があった具体的な取組事例 〈中学校編〉

B中学校は、生徒の自己有用感や自己肯定感を高める取組を行っており、話し合いや学び合いを充実させて、生徒の学力を向上させている。全国学力・学習状況調査は、3年前は全ての問題で全国平均を下回っていたが、平成30年度は全ての問題で全国平均を上回り、特に、数学Aは9ポイント、数学B・理科は7ポイント上回った。



B中学校で「成果があった取組」

- ・ 特別活動等で「人間関係づくり」に取り組むとともに、月に1回程度、教科ごとに「学び合いの時間」を設定することで、グループで生徒同士が分からないところを話し合ったり、教員に質問したりして解決していく取組を充実させ、学力を定着させている。
- ・ 目標をもって授業や学校生活に取り組めるよう、1年生のときから卒業生による職業講話や高校教員による講話を聞くなどキャリア教育を充実させている。
- ・ 次週の家庭学習の計画を立てさせ、週末課題や宿題等に確実に取り組ませるとともに、課題が提出できない生徒へ補充指導を行うなどの支援を行っている。

C中学校は、朝の時間や放課後を活用した補充指導、個別指導に取り組み、生徒ができるまで、「見届け」をしっかりと行っている。

全国学力・学習状況調査において、平成30年度、全ての問題で全国平均を上回り、特に、国語Aは8ポイント、国語Bは9ポイント、理科は7ポイント上回った。

C中学校で「成果があった取組」

- ・ 教科の壁を越えてワークショップ型の校内研修を行うことで、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善について、共通理解し実践している。
- ・ 教員間で日常的に、授業内容や生徒の学びについて話題に上るような環境をつくり、一人一人の生徒ができるまで、授業の終末での「振り返り」と家庭学習の「見届け」をしっかりと行っている。
- ・ 朝の時間を活用した「補充指導の時間」を週に1～2回設定したり、生徒が質問に来る個別指導の時間を放課後に設定したりするなどの取組を行っている。

その他の学校で「成果があった取組」

- ・ 教科担任が3学年を通して受け持つ「縦持ち」を実施していることが、教員が教科の系統性を意識したり、教員同士で資料を交換したり、テスト問題作成や指導過程について意見を交わしたりするなど、指導力向上につながっている。
- ・ 全国学力・学習状況調査結果を、定着が不十分な問題の誤答を中心に、教科ごと、学級ごとに細かに分析し、生徒がつまづいているところを明確にして、指導に生かしている。
- ・ B問題を意識して、「かごしま学力向上支援Webシステム」の単元別評価問題に授業や家庭学習等で取り組ませるなど積極的に活用している。